

「日本神経精神薬理学雑誌」 第30巻 第3号 2010年6月

特集：神経可塑性と向精神薬の作用機序

特集に当たって

曾良一郎

統合失調症リスク遺伝子と神経可塑性：抗精神病薬の創薬ターゲット分子

橋本亮太・安田由華・大井一高・福本素由己・山森英長・武田雅俊

神経細胞新生から見た向精神薬の作用機序

中川 伸

精神疾患の中間表現型としての未成熟歯状回

高雄啓三・宮川 剛

神経可塑性と抗精神病薬の作用機序としてのシグマ-1 受容体の役割

橋本謙二

原著論文

アニマルセラピーで脳賦活効果が得られた気分〔感情〕傷害の2症例における
fNIRS を用いた光脳機能イメージング評価

岩橋和彦・深間内文彦・青木 淳・栗原晃平・吉原英児・井上正雄・柴内
裕子・石郷岡純

ミニレビュー

脳機能画像による不安傷害の病態解明：Stress-induced fear circuitry disorders
を中心に

塩入俊樹

脂肪酸シグナル・神経新生・精神疾患

大隅典子

精神疾患を分子生物学で考えてみる：統合失調症発症脆弱性因子 DISC1 をモ
デルとして

貝淵弘三・坪井大輔